

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成26年度 (2014年度)		授業科目	船舶通信概論	
科目基礎情報							
科目番号	0022			科目区分	専門 / コース必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	商船学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「百万人の天気教室」白木正規著、成山堂書店						
担当教員	鈴木 治						
到達目標							
1. 天気の基礎を理解し、各種天気現象における発生の仕組みや構造等について説明できる。 2. 気象観測と気象情報の流れについて説明できる。 3. 各種天気図から必要な情報を読み取れ、予報を活用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	各種気象要素の変動要因を説明できる			各種天気要素の仕組みを説明できる		各種気象要素の成因が説明できない	
評価項目2	船舶における気象観測ができ、各種気象情報を入手ができる			各種天気図を適切に入手・報告できる		洋上での気象上の入手法が説明できない	
評価項目3	各種天気図・気象情報から、簡単な予報ができる			天気図の情報を読み取ることができる		天気図の情報を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各種気象要素を理解し、天気現象の発生要因や変動要因を理解し、天気図を含む気象情報を航海に活用できるように学習する。						
授業の進め方・方法	授業は講義形式を基本とするが、教科書を使って予習・復習を行い、講義ノートを補完した独自の自学自習ノートを作成すること。						
注意点	小テストを頻繁に実施するのでそのための学習を怠らないこと。また、課せられたレポートは期限に遅れずに提出すること。						
授業計画							
後期		週	授業内容			週ごとの到達目標	
	3rdQ	1週	各種気象要素の観測演習 1			気温・湿度・気圧・風の観測法を説明できる	
		2週	各種気象要素の観測演習 2			雲・降水・視程の観測法を説明できる	
		3週	船舶における気象情報の入手法			船舶における気象情報の入手法を説明できる	
		4週	船舶における有効な気象情報の入手法			衛星情報等の入手法を説明できる	
		5週	地上天気図			地上天気図に含まれる情報を説明できる	
		6週	高層天気図			高層天気図における情報を説明できる	
		7週	波浪・気象・海況に関する実況図・予想図 1			実況図・予想図からの情報を説明できる	
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	波浪・気象・海況に関する実況図・予想図 2			実況図・予想図からの情報を説明できる	
		10週	気象に関する各種警報等について			気象警報・注意報・特別警報について説明できる	
		11週	異常気象について 1			船舶に影響する波浪・風の影響について説明できる	
		12週	異常気象について 2			降水・着氷の影響について説明できる	
		13週	台風の影響のついて 1			台風進路と自船の関係を説明できる	
		14週	台風の影響について 2			避航航路を設定できる	
		15週	期末試験の説明				
		16週	期末試験の解答・解説			期末試験の内容を理解する	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	10	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	40	0	90
分野横断的能力	0	0	0	10	0	0	10